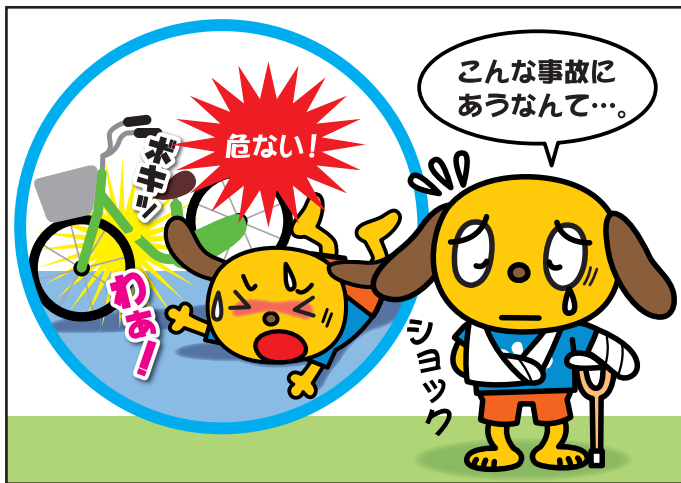


「事故情報データベース」を活用しましょう



私たちが普段使っている製品で思わぬケガをすることがあります。

消費生活上の事故の再発、拡大の防止のために、事故情報が消費者庁のホームページで公開されています。

(http://www.jikojocho.go.jp/ai_national/)

【事故の例】

- ◆1歳6か月の幼児が家電のリモコンから取り出したボタン電池を飲み込んでしまった。病院で取り出したが食道に穴が開き、治療に2か月かかった。
- ◆自転車を走行中、フレームが折れて転倒した。両手を骨折して完治するまでに2か月以上かかった。

【事故情報の集約と公開】

「事故情報データベース」は、関係行政機関が保有する生命・身体に係る消費生活上の事故情報を、一元的に集約したデータベースです。重大事故や食中毒など多くの情報を掲載し、事故品の名称や企業名の他、事故の概要が載っています。原因調査中のものや、因果関係が明確ではないものも含まれています。

【期待される効果】

消費者が消費生活上の事故情報を知ることによって、製品事故の未然防止につながります。また、企業に対しては、安全に配慮した製品の開発への意識が高まることが期待できます。

不慮の事故を減らすために、事故情報データベースを活用しましょう。

チーフの わん!ポイントアドバイス

事故の再発や拡大防止のためのデータベースだワン!
活用してほしいワン!

